



KOUMEI



教文伝統芸能シリーズ

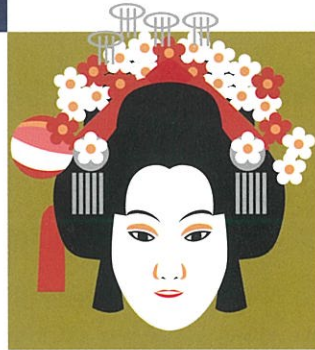


SHIRATAYUU

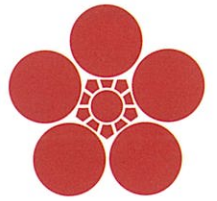


GENDA

BUNRAKU SEMINAR
文楽七三十一
KYOBUN Traditional Culture Series



MUSUME



ODANSHICHI



BUNSHICHI



KEISEI



KENBISHI



GABU



OFUKU

人間国宝
吉田和生が語る
文楽の世界



WAKAOTOKO



YASHIO



2018.5.3 [木・祝] 13:30開演 (13:00開場) 札幌市教育文化会館 小ホール

全席自由 3,000円 (教文ホールメイト 2,500円) U-25席 1,500円 (25歳以下限定)

チケット取扱

教文プレイガイド tel.011-271-3355 大丸プレイガイド(南1西3) tel.011-221-3900

チケットぴあ(Pコード 485-461 / 0570-02-9999) ローソンチケット(Lコード 11842 / 0570-000-777)

主催:札幌市教育文化会館(札幌市芸術文化財団) 後援:札幌市、札幌市教育委員会 企画:関西舞台芸術研究所 協力:関西舞台(株)



2018年

5月3日[木・祝] 13:30開演 (13:00開場)

札幌市教育文化会館 小ホール

全席自由 3,000円 (教文ホールメイト 2,500円) U-25席 1,500円 (25歳以下限定)

〈チケット取扱〉

教文プレイガイド tel.011-271-3355 大丸プレイガイド(南1西3) tel.011-221-3900

チケットぴあ(Pコード 485-461 / 0570-02-9999) ローソンチケット(Lコード 11842 / 0570-000-777)

文楽セミナープログラム

[第一部]

吉田和生の文楽舞台裏話

～三業(太夫・三味線・人形)と文楽舞台裏話～

〈人形〉「文楽人形の手・足」 吉田和生(人形浄瑠璃文楽座・人形)

〈太夫〉「感情豊かな浄瑠璃」 豊竹希太夫(人形浄瑠璃文楽座・太夫)

〈三味線〉「太棹の響き」 鶴澤清丈(人形浄瑠璃文楽座・三味線)

[ミニコーナー] 近くで見る文楽人形

(休憩)

[第二部]

上演『壺坂観音霊験記』 沢市内より山の段

〈太夫〉豊竹希太夫

〈三味線〉鶴澤清丈

〈人形〉吉田和生 吉田玉佳 吉田玉勢 吉田玉馨

吉田和馬 吉田玉路 吉田和登

[あらすじ] 『壺坂観音霊験記』 沢市内より山の段

大和の第六番札所の壺坂寺の近くに住む目の不自由な座頭沢市は琴や三味線を教え、女房のお里は内職をして細々と暮らしていました。結婚して3年の間、お里は毎日夜明け前になると家を出ていくことに、沢市は他に好きな男がいるのではないかと考えて正直に打ち明けるようお里に求めた。お里は、沢市の眼が治るよう壺坂寺の観音に祈願するためと話し、今日がその満願の日だと告げる。真実を知った沢市はお里に詫言の一方、一向に治らない目に落胆する。お里は沢市を励まし、一緒に壺坂寺へ参詣することにした。壺坂寺は、断崖絶壁の上に本堂があり、沢市はそこで三日間の祈願をすることを決意し、お里に家に必要な品を取りに行かせる。一人残った沢市は、誠実なお里を疑ったことを詫言、お里が良縁を得て幸せになるように願いつつ、谷へ身を投げる。やがて戻ってきたお里は沢市を探し回り、崖の上にある沢市の杖を見つける。谷底に沢市が横たわっているのを見てお里もそのあとを追って谷へ身を投げる。

しばらくたって雲間から観音菩薩が現れ、二人の夫婦愛と日頃の信仰心によって二人の命を延ばすと告げて姿を消す。夜明けに息を吹き返した二人は起き上がり、沢市の眼が治っていることを知り、観世音菩薩を讃え、喜び合うのでした。

[解説]

幕末から明治にかけての三味線の名人二世豊沢田平が作曲した作品です。明治十二年(1879)、大江橋席で初演された『西国三拾三所観音霊場記』の一段で、明治二十年(1887)、大阪彦六座で『三拾三所花野山』の一段として田平が改めて節付けし、三代竹本大隅太夫が語って大評判となりました。詞章には田平の妻・千賀の手が加えられ「三つ違いの兄さんと……」で始まるお里のくどきは、とくに有名です。地歌や御詠歌を取り入れたのも千賀の工夫と云われています。

当日は、小ホール ホワイエにて
ストラップ、クリアファイル、ブローチ等
素敵な文楽グッズを販売いたします。



認定後北海道での初めての公演。

吉田和生師が、

人形浄瑠璃文楽座技芸員の

2017年10月に人間国宝に認定された

文楽の世界

人間国宝・吉田和生が語る

文楽セミナー

教文伝統芸能シリーズ



『壺坂観音霊験記』沢市内より山の段
写真:三宅晃介

プロフィール



人形浄瑠璃文楽座・人形

吉田 和生 (よしだ かずお)

昭和42年、文楽協会人形部研究生となる。同年、吉田文雀に入門し、吉田和生と名のる。翌年、大阪毎日ホールにて初舞台。平成29年10月、重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定される。昭和56年(昭和55年度)因協会奨励賞、昭和62年(昭和61年度)因協会奨励賞、平成3年(平成2年度)文楽協会賞、平成4年(平成3年度)国立劇場文楽賞文楽奨励賞、平成12年(平成11年度)因協会賞、平成16年(平成15年度)大阪文化祭賞、平成18年(平成17年度)国立劇場文楽賞文楽優秀賞、平成26年(平成25年度)芸術選奨文部科学大臣賞、同年、愛顔(えがお)のえひめ文化・スポーツ賞、平成27年(平成26年度)国立劇場文楽賞文楽大賞、平成29年(平成29年度)兵庫県文化賞(伝統芸能)、同年、第30回関西・こころの賞(特別賞)等受賞。



人形浄瑠璃文楽座・太夫

豊竹 希太夫 (とよたけ のぞみだゆう)

平成14年、国立劇場文楽第20期研修生となる。平成16年、豊竹英太夫に入門し、豊竹希太夫と名のる。同年、国立文楽劇場にて初舞台。平成25年(平成24年度)文楽協会賞、平成27年(平成26年度)国立劇場文楽賞文楽奨励賞等受賞。



人形浄瑠璃文楽座・三味線

鶴澤 清丈 (つるさわ せいじょう)

平成10年、国立劇場文楽第18期研修生となる。平成12年、鶴澤清介に入門し、鶴澤清丈と名のる。同年、国立文楽劇場にて初舞台。平成20年(平成19年度)文楽協会賞、平成25年(平成24年度)文楽協会賞、平成25年(平成25年度)大阪文化祭賞グランプリ、平成26年(平成25年度)国立劇場文楽賞奨励賞等受賞。

2018年度「教文伝統芸能シリーズ」

札幌市教育文化会館では能舞台や歌舞伎の花道などを活かし、日本の伝統芸能を紹介する「教文古典芸能シリーズ」を開催してきました。2011年度より能の五流派をみくらべる公演やレクチャーを、2016年度は能楽に現代美術をプラスした『noh play』、2017年度は能の名作『松風一見留一』を上演しました。今年度より「教文伝統芸能シリーズ」と名称を改めて、次世代へ向けて伝統芸能を継承するプログラムに積極的に取り組んでいきます。

- 能楽公演「能楽なう」/ 2018年6月12日(火)
- 人形浄瑠璃文楽 / 2018年10月15日(月)
- 狂言公演 / 2018年8月31日(金)、9月1日(土)

札幌市教育文化会館 〒060-0001 札幌市中央区北1条西13丁目 www.kyobun.org/

交通機関

◎地下鉄/東西線西11丁目駅(1番出口)から徒歩5分

◎JRバス・中央バス/北1条西12丁目バス停から徒歩1分

◎市電/西15丁目から徒歩10分

お問合せ

札幌市教育文化会館 事業課 TEL.011-271-5822

[電話受付] 9:00~17:00 ※第2、第4月曜は休館



スマホからはこちら

※当会館には、お客様駐車場はございません。お近くの有料駐車場をご利用ください。 ※未就学児童はご入場いただけません。